

04

軽自動車サイズの「VipCar」

“VipCar” of light car size

デザイン学科・教授
Department of Design・Professor
木村 一男 Kazuo KIMURA

軽自動車の存在

我が国には「軽自動車」と呼ばれる独特の規格を持った自動車が存在する。1949年に設定されたものだが、当初のサイズは全長2.8m、全巾1.0m、全高2.0m、エンジン容量300ccという極めて小さいものであった。

その後、数度にわたるサイズ・アップが図られ、98年に現在の全長3.4m、全巾1.48m、全高2.0m、エンジン容量660ccとなった。これは普通車と同じ安全衝突基準が適用されることになったためである。

この軽自動車は、自動車税などの税金や保険の優遇、超小型車ならではの燃費効率とあいまって、日本の自動車社会の中で確固たる位置を占めるまでに成長した。2006年度には、新車販売台数は200万台を越え、新車販売台数における軽自動車の比率は35%を突破するまでになっている。

軽自動車サイズの「VipCar」の提案

この提案は、軽自動車を省エネルギー時代にふさわしい車格としてとらえ、さらにその適用範囲を拡大させようと試みたものである。

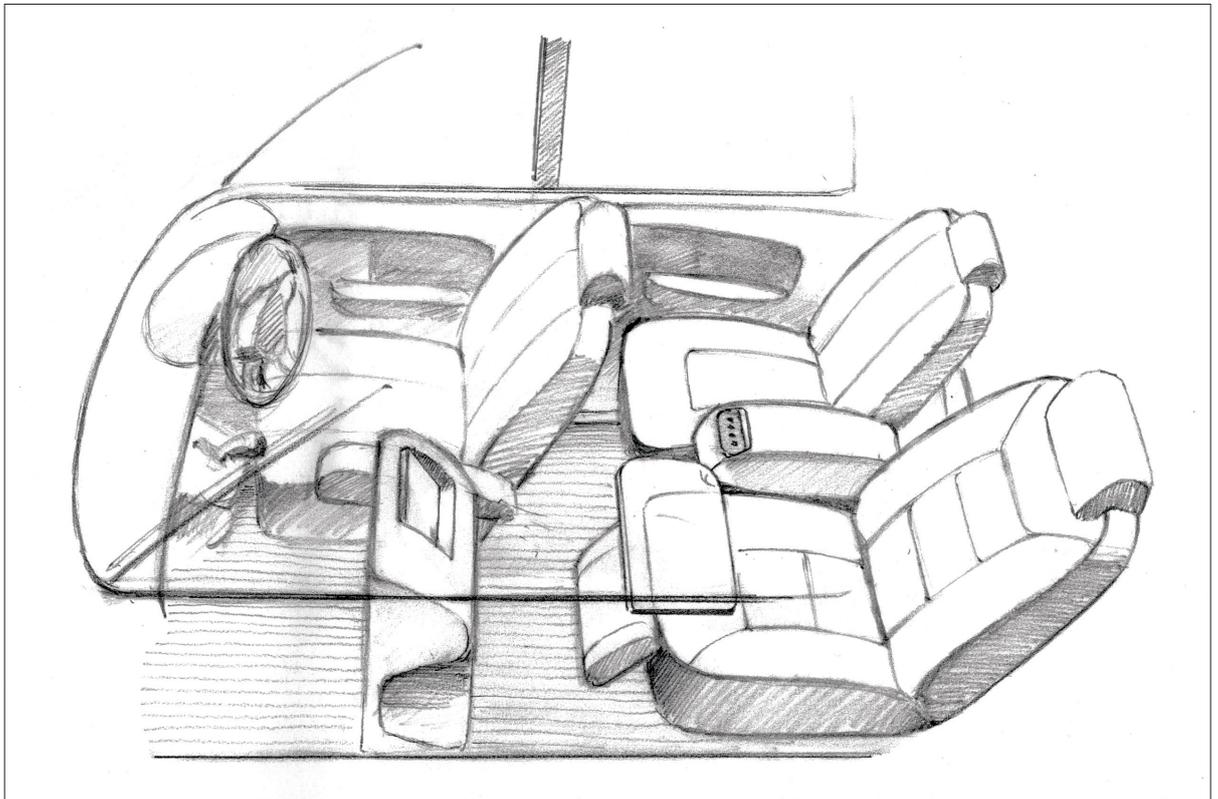
即ち、軽自動車のボディに、レクサス・サイズのシートを収めた超小型の「VipCar」である。そのため、リアシートの秘書の席は小さく、主客の席は大きくレクサス級とする。フロントシートは運転席のみとして、主客のレッグルームを充分確保した。

助手席側にはAV装置などを収めたコンポーネント・ラックを設け、書類がひろげられるようにテーブルも備える。こうしてVip専用車として充分なしつらえをととのえた。

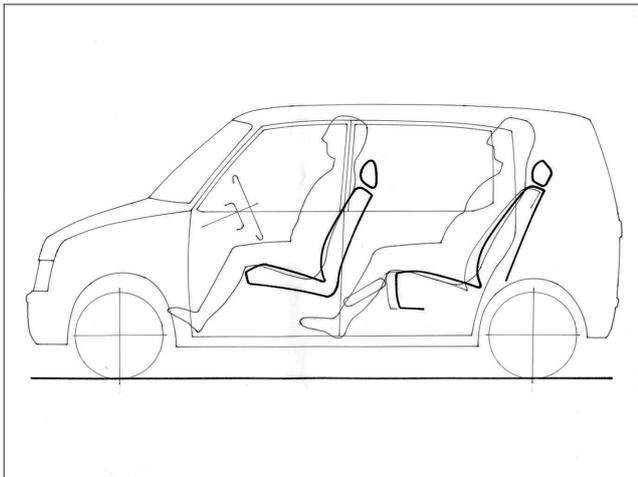
相当に重装備の艤装となるので、エンジンが660ccでは物足りなくなり、若干のサイズ・アップが必要であろう。

ただ、なによりの課題は、「VipCar」にふさわしい小さいながらも風格のあるボディ・デザインが生みだせるかである。これからも研究をつづけたい。

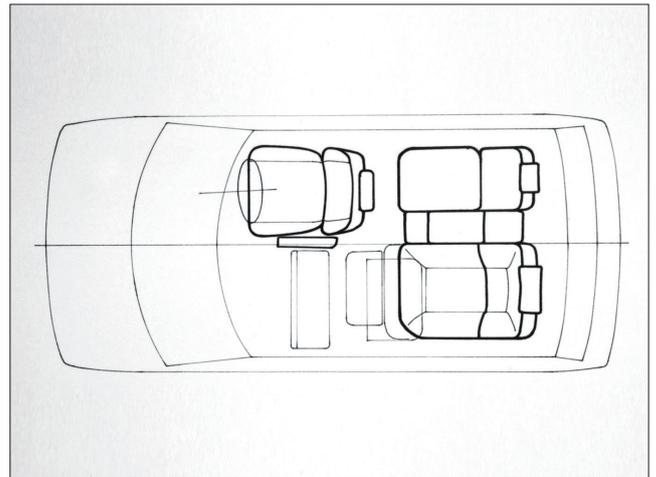
こうした軽自動車の活躍する分野が、こうした「VipCar」から、タクシーやマイクロバスなどにまで広がったら、省エネルギーの見地ばかりでなく、都市景観にまでも大きい影響を与える存在になることだろう。



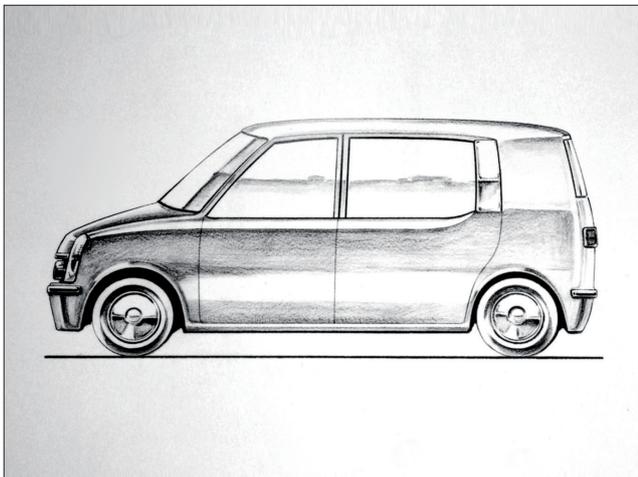
インテリア・パース



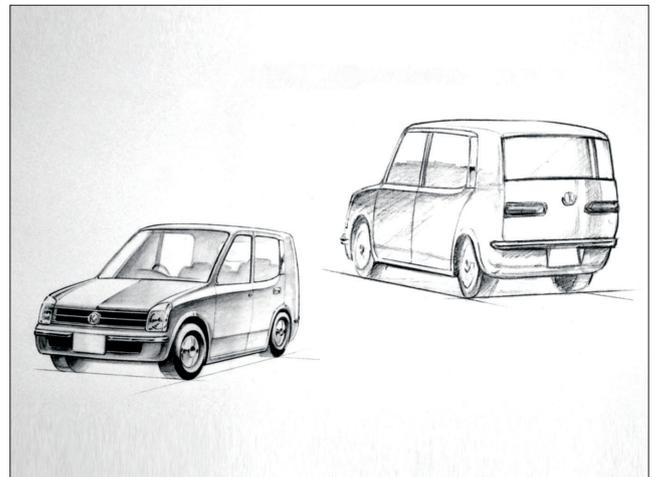
インテリア・レイアウト(サイドビュー)



インテリア・レイアウト(プランビュー)



エクステリア・デザイン



エクステリア・デザイン